

平成21年度 特別推進研究 審査結果の所見

研究課題名	大脳棘シナプスと開口放出の2光子顕微鏡による研究
研究代表者	河西 春郎
審査の所見	<p>記憶・学習の基礎過程であるシナプス可塑性の分子・細胞メカニズムの研究は、神経科学の中心的課題であり、国際的にも激しい研究競争が繰り広げられている。応募者らは、2光子顕微鏡を用いる独自の実験技術を開発し、生きたニューロンでシナプス可塑性変化に伴うスパイン動態の変化を可視化し、その成果は世界をリードする業績として高い評価を受けている。本研究課題は、従来の実績に基づき、さらに高度な実験技術を開発し、記憶・学習の脳機構に関して分子レベルから個体レベルに至る統合的理解を目指すものであり、今後の発展が十分期待できる。以上により、本研究課題を特別推進研究として採択すべきと判断した。</p>